

シラバス調査とIDの視点に基づくシラバス作成支援システムの開発 - 図書館概論を例として -

Development of Support System for Course Syllabus based on Survey of Syllabuses
and Instructional Design - A Case of "Introduction to Library Science" -

笠井 詠子 松葉 龍一 鈴木 克明 中野 裕司
Eiko KASAI Ryuichi MATSUBA Katsuaki SUZUKI Hiroshi NAKANO

熊本大学大学院教授システム学専攻
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞ インストラクショナルデザイン（ID）の視点を搭載したシラバス作成支援システムの開発を目的に、まず、全国の大学が公開しているWebシラバスを調査した。図書館司書課程科目としてある程度内容が統一されている「図書館概論」を例として調査したところ、大学ごとに形式や項目や記述量等がまちまちであった。本研究では、シラバス調査の結果を踏まえ、IDの視点を搭載したシラバス作成支援システムのプロトタイプを、専門的なプログラミングが不要なFileMaker Proを用いて開発した。形成的評価において、本システムを用いることで授業計画の効率的な作成や科目の見直しにつながるとの意見が得られた一方で、シラバス作成の負担感が大きいという意見もみられた。

＜キーワード＞ インストラクショナルデザイン、シラバス、システム開発、FileMaker Pro

1. はじめに

大学等高等教育機関において、その科目の概要を示したシラバスは学生の履修選択の重要な情報源である。教員の側から見れば授業の設計書に相当するとも言える。単位認定制の実質化の要請に伴い、シラバスには各科目の到達目標や学生の学修内容、準備学習の内容、成績評価の方法・基準を明示することが求められるようになった。

実際の対応状況を調べるために、全国の大学で公開しているWebシラバスを調査し、その問題点の抽出を試みた。その上で、インストラクショナルデザイン（以下、ID）の視点を搭載したシラバス作成支援システムのプロトタイプを開発することにした。本システムによって、授業の前提条件、到達目標、学習内容相互の関連性や連続性、評価方法等を明確化し、詳細な授業計画の効率的・効率的な作成に資することを目指した。

2. シラバス調査

2. 1. Webシラバスの収集

中央教育審議会（2008）の「学士課程教育の構築に向けて（答申）」及び文部科学省（2011）の「大学における教育内容等の改革状況について」のシラバス関連の記述に着目し、シラバスの項目として挙げているものを調べた。その上で図書館司書課程科目として内容がある程度統一されている「図書館概論」を例として全国231大学のWebシラバスを収集し、その記述内容を調査した。

2. 2. シラバスの問題点の抽出

収集したシラバスについて、記述項目の採用率、記入率、記述文字量等に着目し、問題点を抽出した結果、主に準備学習、履修条件、到達目標の項目に問題点があると判断した。さらに評価基準を示していないものが多いことや、受講生へのメッセージは要求型が多いことなども分かった。

3. シラバス作成支援システム

3. 1. 支援システムの設計

本研究では、ID の知識が無い教員でも、作成したシラバスが ID 理論に沿ったものとなるよう支援するシラバス作成システムを開発することをコンセプトとした。具体的には、科目全体の入口・出口・評価に関する項目を設置することに加え、各授業回の入口・出口・評価に関する項目を設置した。また、各授業回の到達目標の分析結果を記入する項目を設置した。主要項目には解説を施し、記入例を複数表示させた。

3. 2. プロトタイプの開発

図 1 に開発したプロトタイプシステムの一部を示す。開発には市販のデータベースソフト FileMaker Pro 12 を用いた。本ソフトは専門的なプログラミングが不要で、画面設計の自由度が比較的高く、インスタンント Web 公開機能による Web 経由の形成的評価が可能なことから選択した。

3. 3. 形成的評価

図書館概論を担当している教員 3 名に評価を依頼した。評価は、開発したプロトタイプシステム上で、各々の教員が図書館概論のシラバスを作成した後、アンケートを実施する形で行った。

アンケート結果から、各授業回に前提条件、到達目標、評価方法・基準の項目を設置したことは概ね効果的であり、これらの項目を一覧して振り

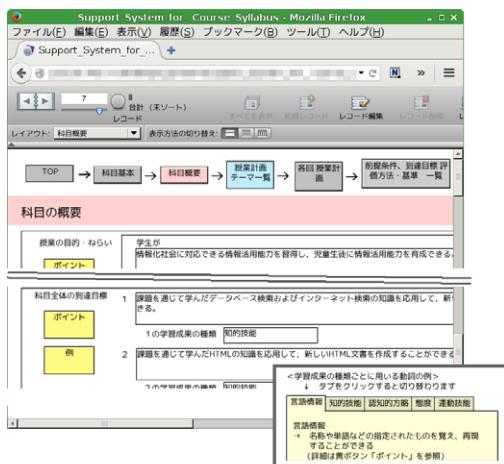


図 1 開発したプロトタイプシステムの一部

返る画面遷移も概ね効果的であるとの回答を得た。また、授業計画の効率的な作成に役立ち、当該科目的見直しにつながるとの意見が得られた。

一方で「本システムを今後も使いたいか」「他の教員に勧めたいか」の問い合わせについては、積極的には使いたくない、積極的には勧めないと回答があり、その主な理由は、シラバスの作成に時間がかかるというものであった。

4. シラバス作成支援システムの改善

形成的評価及び ID の専門家によるレビューに基づき、プロトタイプシステムの改善を行った。主な改善点は、各授業回の到達目標ごとの課題分析をオプションにし、科目全体の到達目標ごとの課題分析の追加、学習と評価の関連付けとタイミングの明示などである。

5. おわりに

Web シラバスの調査結果を踏まえ、ID の視点を搭載したシラバス作成支援システムを設計し、プロトタイプを開発した。形成的評価の結果、科目全体および各授業回の授業計画を ID の視点に立って作成することに寄与し、授業設計の見直しに役立つとの示唆が得られた一方で、作成に時間がかかるなどの意見も挙がった。評価等を元にプロトタイプを改良した。今後、さらに完成度を上げていきたい。

参考文献

- 中央教育審議会（2008）「学士課程教育の構築に向けて」. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm (accessed 2014.07.14)
- 文部科学省高等教育局（2011）「大学における教育内容等の改革状況について」http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1310269.htm (accessed 2014.07.14)